

中・長期的課題に活発な議論

11月定例会は「政策議会」と位置づけられ、
掛川市の現状における課題について、常任委員会ごとにテーマを設定して議論しました。
ここでは、議論された内容の要旨を掲載します。



総務委員会協議会（委員長 二村禮一）

(1) シティプロモーションの 推進について

「まちの目指す姿の形成」及び「市民参画の拡大に向けた市民協働会議の活動状況」について説明を受けた後、総務委員会の行政視察の内容も踏まえて話し合いました。

各委員より、戦略的な情報発信により掛川を売り込むことで、賑わいづくりを進め「交流人口の拡大」、「産業の活性化」、「移住・定住の促進」等を図ったかどうか、という意見や、観光政策では、「ポップカルチャーサミット」やフィルムコミッションに力を入れることで、ロケ地の撮影場所も分かり、非常に効果があるという意見、そのためにも、掛川の魅力を発信できるように基礎のデータベースを作成し、持続可能な仕組みを作ることが重要であるという意見等が出ました。

(2) 「かけがわ茶エンナーレ」の 検証について

「かけがわ茶エンナーレ」は、市民の文化力の向上や子どもたちの感性、創造力を育むとともに、掛川市の美しい風景や歴史資源など、掛川の魅力を再発見し、国内外に向けて発信することを目的に、約1か月間行われました。開催期間は週末を中心に雨（台風）にたたられ、延べ総来場者数は約17万人だったという報告がありました。

各委員から、来場者アンケートを見ると、非常に満足度が高く、好意的な意見が多いと感じるという意見や、開催エリアは、市内全域だったが、参加してより楽しむという意識を生むためにも、エリアを絞り細かくできるような仕組みづくりが必要という意見、地域とアートが共鳴することで、あらためて自分たちの身近にある素晴らしい地域資源を意識し、見直すきっかけとなったという意見等が出ました。